

# 広河隆一プロフィール

「一枚の写真が国家を動かすこともある」「人々の意思が戦争を止める日が必ず来る」

広河隆一氏が責任編集・発行しているフォトジャーナリズム月刊誌DAYS JAPANのテーゼである。彼はふたつの眼を持っている。ひとつはフォトジャーナリストとしてファインダーを見つめる眼、もうひとつは眼鏡の奥にある人間としての眼だ。チェルノブイリの現場、福島の状態を裸の眼でみたからこそ、彼は「チェルノブイリ子ども基金」を立ち上げ、医薬品を送り、サナトリウムを建設した。福島では事故直後に原発から3kmの現地に入り、持参したガイガーカウンターが振り切れるなか、住民たちが汚染された現場にいることを知らされていないことに驚き、事情を説明し、避難させた。チェルノブイリの経験を生かすべく、彼は放射能測定器とホールボディーカウンターを真っ先に現地を送り、6か所の測定所を設けて支援を開始した。現在は、最後のライフワークとして、福島の子どものための保養施設「沖縄・希望21」を建設するため、広く支援を呼びかけている。



- 1943年 中国天津市生まれ。2歳のとき日本に引き揚げ
- 大学卒業後、イスラエルに渡り、帰国後、中東諸国を中心に海外取材を重ねる
- 1982年 レバノン戦争とパレスチナ人キャンプ虐殺事件を記録（よみうり写真大賞）
- 1983年 IOJ国際報道写真展（大賞・金賞）
- 1989年 チェルノブイリとスリーマイル島原発事故の報告（講談社出版文化賞）  
現在に至るまでチェルノブイリ救援に取り組む（1991年～チェルノブイリ子ども基金創設代表、現顧問）
- 2004年 フォトジャーナリズム月刊誌『DAYS JAPAN』創刊、編集長
- 2011年 3月13日 東電福島第一原発事故直後、避難指示が出ていた双葉町を取材

## <主な作品・受賞歴>

### ●写真展&写真集

「地球の現場に行く」(1994年)「チェルノブイリと地球」(1996年) コニカプラザ東京フォトギャラリー  
「アウシュビッツとチェルノブイリ」(1998年)「激動の中東」(2001年) 銀座ニコンサロン  
『人間の戦場』(新潮社) 日本ジャーナリスト会議特別賞  
『チェルノブイリ 消えた458の村』(日本図書センター) 平和・協同ジャーナリスト基金賞  
『写真記録パレスチナ』 土門拳賞、日本写真家協会年度賞受賞

### ●映像

日本テレビ、NHKを中心にチェルノブイリ、中東などの報道番組を多数制作

### ●著作

『チェルノブイリから～ニーナ先生と子どもたち』(小学館) 産経児童出版文化賞  
『福島 原発と人々』(岩波新書)『暴走する原発ーチェルノブイリから福島へ』(小学館)  
『チェルノブイリと地球』『チェルノブイリの真実』『原発被曝』(以上講談社)  
『ユダヤ国家とアラブゲリラ』『パレスチナ難民キャンプの瓦礫の中で』(以上草思社)等

## ■各会場案内図

